

平成 27 年度 教育方法改善のための自己点検・評価(授業評価等)実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「平成 27 年度授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側(学生側)
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 教育基盤センター 教育推進部会
教育学部 教育学研究科	教育学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	教務委員会・大学院学務委員会 全ての学部生・大学院生
医学部(医学科)	医学科教務部会 医学科学友会
医学部(保健学科)	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	評価委員会専門委員 学生 WG 委員

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・学生支援機構	<p>年度当初に実施科目を教育基盤センター運営委員会で選定(27 年度は学びのリテラシー)</p> <p>開講授業科目担当教員を通じて学生に周知し、教務システムでアンケートを実施。</p> <p>教務システムから回答データを出力し、集計。</p> <p>上記の実施状況(科目数、アンケート回収枚数)以外</p> <p>「教養教育アンケート」として教養教育科目履修学生に対し教務システムでアンケートを実施</p> <p>回答件数:718 件</p> <p>教務システムから回答データを出力し、集計。</p>

教育学部 教育学研究科	前後期ともにWEB アンケートを実施した。 なお、このアンケートによる評価になじまない実験、実技、実習などの講義以外の授業では、別途「授業改善報告書」を教員が作成して教務係へ提出する方式をとった。
社会情報学部 社会情報学研究科	学 部 : 前後期の授業終了時にアンケート用紙を配布し、回収した。 大学院 : 後期授業終了時に、前後期に開講したすべての授業を対象にして、web 教務システムを用いてアンケートを実施した。
医学部(医学科)	医学科の学生自治組織である学友会に設置されている授業向上委員会が主体となり、1年次から6年次の各学年に対してアンケートを実施し、回収・集計結果を医学科教務部会に報告している。
医学部(保健学科)	教務システムを用いてオンラインにより実施している。
医学系研究科	医科学専攻については、教務システムのアンケート機能を活用し、在学生全員を対象にアンケートを行った。生命医科学専攻については、大学院生数が少なく、また、医科学専攻の大学院生に比べると窓口に来る機会が多いことから、窓口に来た際に、学生から要望事項等を吸い上げた。また、担当教員もニーズ把握に努めた。
保健学研究科	前学期の授業最終日にアンケートを配布し、各自、あるいは代表者が大学院係へ提出する。
理工学部 理工学府	前期・後期で、学部・大学院のうち 1 科目以上は全教員が授業改善のためのアンケートを受けることとした。大学院については、原則全科目で実施することとした。詳細な実施方法は、各学科・教育プログラムで決定したが、主に学生側にアンケート用紙の回収等を行うワーキンググループを組織してもらい、これが主体となって実施した。各教員はアンケート結果に基づいて、学生に回答するためのリアクションペーパー等を作成した。 また、これと並行して教員相互の公開授業を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構	【結果概要】 「学びのリテラシー」を対象に学生アンケートを実施した。教養教育のカリキュラム(授業科目のメニュー、時間割、授業内容)や教養教育における教員の授業の教え方などの確認ができ、課題も見つけることができたので今後の授業内容等の改善が期待される。
	【課題】 教養教育アンケートでは、総合的な評価では概ね好評であった。
	【具体的な改善事例】 評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善の啓発を図っている。

<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>【結果概要】 総合評価において、9割以上の学生が肯定的な評価(「優れている」「やや優れている」)をしている。 今年度からアクティブ・ラーニングに関する設問を増やした。授業評価実施科目のうちでアクティブ・ラーニングを実施していると思われる授業科目は全体の5割以上を占めており、当該科目の総合評価においては、「優れている」「やや優れている」と言った肯定的な意見が全体の9割以上を占めている。 今年度は前後期ともにWEBによるアンケートを実施し、業務の効率化や利便性を図った。しかしながら、アンケート回答者数が減少し、昨年度の同時期と比較して3割程度の回答者数となった。</p> <p>【課題】 全体から比べると小さな割合だが、評価項目の「授業内容の適切さ」「説明の分かりやすさ」、「内容や課題の量」において、改善すべきとの評価を受けている教員がいる。 WEBによる授業評価アンケートの回答率を上げる必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 評価結果を各教員にフィードバックし、授業改善を促したほか、全体の集計結果を教務委員会、教授会において報告し、授業改善に対する意識を喚起した。 学生に対し、授業評価アンケートの周知を徹底するほか、授業時間終了間際にスマートフォン等で回答する時間を設けるようにした。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】 学部評価アンケートでは、授業についての5項目(「興味が持てる」「考える力を高めた」「将来役に立つ」「わかりやすかった」「学生の反応や理解度を確認しながら授業を進めていた」)に対して、「そう思う」「まあそう思う」の回答がいずれも85～90%であった。授業全体を「4段階で評価」の項目に対して、「優れている」「やや優れている」の回答が前後期ともに90%前後であった。また、「予習・復習に週何時間を費やしたか」の項目に対して、「予習・復習はしなかった」の回答が前期は51.3%、後期は36.0%であった。 後期から新たに追加した3項目については、「アクティブラーニング等で学生の主体的な参加を促す」の項目に対して、「そう思う」「まあそう思う」の回答が65.0%であった。「シラバス参照したか」の項目に対して、「参照した」「やや参照した」の回答が61.0%であった。「授業はシラバスの内容に沿っていたか」の項目に対して、「そう思う」「まあそう思う」の回答が75.6%であった。 大学院評価アンケートでは、授業についての回答数は少ないが、「大変役立つ」「興味深い」「大変参考となる」といった記述が多かった。また、教務システムを使って評価アンケートを実施したところ、回答数が前年比で20%増えた。</p> <p>【課題】 (課題1)「アクティブラーニング等で学生の主体的な参加を促す」授業が少ない。(課題2)学生の予習・復習の時間が少ない。(課題3)シラバスを参照しない、あまり参照しない学生が多い。</p>

	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>(課題1)については、アクティブラーニング等のFDを開催したり、アクティブラーニング等の授業を公開授業として、教員が学習できる機会を設ける。(課題2)については、レポートや課題を出したり、小テストをしたりするなどして、授業内容にあった創意工夫をする。(課題3)については、初回の授業のときにシラバスを使ってガイダンスをしたり、レポートや課題に必要な参考資料情報をシラバスに掲載したりするなどして、シラバスを参照しなければならないように工夫する。</p>
医学部(医学科)	<p>【結果概要】</p> <p>アンケート集計結果は、医学科教務部会に報告後、例年実施しているFDで公表している。科目単位のフィードバックを行い、今後の授業内容、事業実施方法の向上に寄与している。</p>
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング形式を積極的に取り入れる必要がある。 ・臨床実習(選択)の実習先選択方法を検討する必要がある。 ・卒前講義(実践臨床病態学)の開講時期を検討する必要がある。
	<p>【具体的な改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオチュートリアルの実施方法を見直し、新たな科目「臨床推論TBL」として開講した。 ・臨床実習(選択)では、実習先の選択方法について、学生の意見を取り入れて改善した。 ・実践臨床病態学の開講時期の見直しを行った。
医学部(保健学科)	<p>【結果概要】</p> <p>全科目に対して授業評価アンケートを実施した。</p>
	<p>【課題】</p> <p>紙ベースでの実施方法から教務システムを用いての実施方法に移行したが、アンケート回収率が従来の6割から、2割～3割に大幅に低下した。アンケート回収率の向上が今後の課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>教員へのフィードバックを通して、授業方法・質の向上に努める。</p>

<p>医学系研究科</p>	<p>【結果概要】</p> <p>【医科学専攻】</p> <p>これまでのアンケートは、すべて手書きであったためか、自由記載欄にはほとんど記載されないことが多かったが、PC での入力による回答となり、記載への負担が軽減したためか、詳細に意見を書く学生が多数いた。アンケート集計もシステムが行ってくれるので、職員の負担も軽減した。</p> <p>アンケートを年度末に実施したため、結果を踏まえた改善策は今年度早々に検討し、可及的速やかに改善を図っていく予定である。</p> <p>【生命医科学専攻】</p> <p>少人数であるため、教員、事務ともに大学院生から随時ニーズを吸い上げ、必要に応じ、教務委員会で対応策を審議した。</p>
	<p>【課題】</p> <p>【医科学専攻】</p> <p>グローバル化が進展し、留学生数が増えてきている。それに伴い、英語化に係る対応を進めているが、留学生から、対応が不十分であるとの声が上がった。授業以外の部分を含め全般的に対応が十分ではない状況にあり、改善が必要であるが、国際交流関係の窓口が昭和地区にないことから、あらゆる点で、教職員、学生双方が苦勞している。</p> <p>【生命医科学専攻】</p> <p>留学生からの意見踏まえ、これまでに次のとおり対応し、改善してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 秋入学の生命医科学専攻(修士課程)の学生と懇談した結果、日本語での授業は理解ができない事が明らかとなったため、すべての講義実習を英語で開設することとした。 2. 日本語によるコミュニケーション能力向上のため、通常授業の「基礎科学日本語」に加え、週に複数の日本語の授業を選択科目として開設し、受講できるようにした。 <p>これらの結果、学生の講義に対する理解力が飛躍的に上昇し、また、日本語の学習機会が増加した。</p> <p>今年度においても、平成28年4月入学の留学生に対するフォロー方法を教務委員会で検討するなど、組織的に対応したが、まだ不十分な状況である。また、生命医科学専攻においても、国際交流の窓口が昭和地区にないことから、あらゆる点で、教職員、学生双方が苦勞している。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>【医科学専攻】</p> <p>今後、教務委員会で具体的な改善策を検討する予定である。</p> <p>【生命医科学専攻】</p> <p>平成28年度に入学する学生の受入れ体制について、入学前から、教務委員会において、組織横断的に対応を検討し、スムーズな受入れを実現した。</p>

保健学研究科	<p>【結果概要】</p> <p>保健学研究科博士前期課程の各領域学生の必修科目である特別セミナーにおいて実施した。授業評価についての回答は5段階評価で4、5が多数となり、おおむね好結果が得られた。</p>
	<p>【課題】</p> <p>自由記述欄を広く設けた書式にしたので、学生の率直な意見が集約できた。オムニバス形式の授業で、各領域それぞれ先端的研究を紹介する内容としているが、今後いかに学生の興味を引くテーマを紹介できるかが課題である。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>3科目ともオムニバスであり、各領域の教授、非常勤講師からさまざまな話題が講義された。多岐にわたる研究テーマが学生の興味を引く内容となったと考えられるため、今後も最新研究の動向を紹介できる非常勤講師の人選をすすめたい。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】</p> <p>改善を希望する点や、その授業の良い点などが詳しく書かれているので、教員にとって授業方法改善の参考となっており、結果、以前と比較してマイナス評価はあまり書かれなくなった。学生の授業に対する理解度や満足度はかなり向上していると言える。</p> <p>公開授業については、今までは学科毎に公開授業期間を設定していて、同じ学科内での授業に限り実施していたが、今年度から学部全体で共通に期間を1ヶ月間設定して、学科を問わず他の授業を見学することができるようにした。見学した教員は報告書を作成し提出している。その中では、今までだと毎年同じような授業しか聴講できなかったが、他学科の教員の授業を聴講することで、これまでと違った視点、観点から参考になる事項を学ぶことができる機会が得られて良かったという意見が多かった。</p>
	<p>【課題】</p> <p>荒牧で行われている専門科目の授業についてもアンケートを取ったらどうかという意見がだされた。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>荒牧で行われている専門科目の授業アンケートの実施について、今後評価委員会で検討していくこととなった。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学生と学長との懇談会	H27. 7.14	15名	46名	4月入学の学生を対象に大学生活に関して、学長と直接対話する機会を設け、大学への意見・要望を聴取

教育学部 教育学研究科	学部長との 懇談会	H28. 1.26	5名	15名	学習環境、授業内容など
	院生との懇談会	H28. 1.27	11名	23名	カリキュラム、学習環境など
社会情報学部 社会情報学 研究科	学部長と学生との 懇談会	H27.10.28	8名	10名	学部長(他の教員を含む) と学生とで懇談
	研究科長と大学院 生との懇談会	H28. 1.27	2名	10名	研究科長(他の教員を含 む)と学生とで懇談
医学部 (医学科)	学友会との懇談会	H27. 7.13	20名	26名	授業・実習関係、 施設及び学生生活関係
	学友会との懇談会	H28. 2.15	22名	17名	授業・実習関係、 施設及び学生生活関係
医学部 (保健学科)	学友会との懇談会	H27. 6.30	24名	13名	教育課程・施設等に対する 要望の聴取、意見交換
	学友会との懇談会	H27.12.14	24名	14名	教育課程・施設等に対する 要望の聴取、意見交換
理工学部 理工学府	平成 27 年度授業 改善アンケート報 告会 (化学・生物化学 科 2 年生)	H28. 1.19	19名	21名	アンケート実施科目全てに 関して、学生 WG 委員が集 計結果及び教員からの回 答を PP を用いて説明した 後、最後に教員と学生間で 意見交換を行った。
	平成 27 年度授業 改善アンケート報 告会 (化学・生物化学 科 3 年生)	H28. 1.22	21名	45名	同上
	2 年生と教員との 懇談会 (機械知能システ ム理工学科)	H27. 8. 6	10名	120名	2年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応した。
	3 年生と教員との 懇談会 (機械知能システ ム理工学科)	H27. 8. 6	5名	84名	3年生からの授業や学生生 活に対する要望や意見を 聞き、その場で教員側が対 応した。
	授業アンケートに 基づく懇談会(電 子情報部門)	H28. 2.16	1名	14名	授業アンケート結果に基づ く教員と学生の意見交換

	学生教員懇談会 (生産システム工学)	H28. 1.19	1 名	3 名	教員と学生の意見交換
--	-----------------------	-----------	-----	-----	------------

(2) 懇談会での意見に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・学生支援機構 ※詳細については「学生と学長との懇談会要旨」参照	<p>【結果概要】 学習環境、施設・設備などについて、学生から意見・要望があった。</p> <p>【課題】 ・ メディアセンターなどの学内施設の利用環境改善を求める学生が多い ・ 実習時期や履修時期等の改善を求める学生が多い</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】 設備、学習環境等について学部学生から要望があった。 カリキュラム、授業・学習環境等について大学院生から要望があった。 平成 27 年度前期の授業評価アンケート集計結果を基に学部学生と意見交換を行った。</p> <p>【課題】 設備面、放課後の教室開放や図書館の開館時間延長など学習環境・学生生活面の改善を求める学生が多い。 大学院修士課程においては、今年度から新規開講した「教職実践研究」及び「教職実践インターンシップ」の実施について学生から様々な意見があった。 学部学生の参加者を増やす方策が必要である。</p> <p>【具体的な改善事例】 放課後の教室開放について、盗難や電気・空調の電源が教室使用後に切られていないという問題点もあるので、それらの解決方策と共に学習場所の提供に向け検討を進めている。 学生支援委員会において、学部学生の参加者を増やす方策について検討を進めている。 今年度は各講座の学生委員を中心に呼びかけを行い、昨年度と比べて出席者は増加した。 平成 28 年度の大学院新入生オリエンテーションにおいて、「教職実践研究」及び「教職実践インターンシップ」の実践について説明を行う予定である。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【結果概要】 学生からの要望や希望等を踏まえて学修環境の改善等を行った。なお、今年度は学生が参加しやすいように、会場をロビーから教室に変更した。</p> <p>【課題】 教育面では概ね満足している。設備等の面で若干要望があった。</p>

	<p>【具体的な改善事例】 ゴミ箱の位置がトイレのすぐ横だったので、位置をずらした。 学生駐車票を一回り小さいサイズにした。 大学院生室にノート PC と自習用の机を入れた。</p>
医学部(医学科)	<p>【結果概要】 ① 学生による授業評価で実施したアンケート結果に対する意見交換 ② 施設設備や事務側に対する学生生活に関する意見交換</p> <p>【課題】 ・早急に改善できるものは実施する体制の整備。 ・懇談会資料作成のためのアンケートについて、多くのアンケートがあるため、これ以上項目を増やしても回答の質の向上は期待できないなどの影響が予想されること。</p> <p>【具体的な改善事例】 ・意見交換の結果、授業方法に関する内容は教員が行い、事務的に早急に対応すべきところは事務的に対応している。 ・改善事例：リフレッシュルームへの電子レンジの設置要望への対応、体育館の壁の修理要望への対応。</p>
医学部(保健学科)	<p>【結果概要】 懇談の結果実現したもの…3番教室の設備の問題</p> <p>【課題】 老朽化が進んでいる西棟の改修、施設等備品の更新</p> <p>【具体的な改善事例】 懇談の結果実現したもの…3番教室に新たにモニターを1台追加設置し、授業環境の改善ができた。</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 懇談会では学生の参加者を増やすため、期末試験期間中の必修科目終了直後に懇談会を開催するように工夫した学科もあり、参加者が多かった。懇談会では講義に関する意見だけではなく、教室環境やカリキュラムについての要望、研究室への配属に関する意見を聞くこともできた。懇談会の議事録は教員にメールで知らせるとともに、アンケート集計結果と共に事務室で公開され、学生も自由に見ることができる。</p> <p>【課題】 参加が少なかった学科もあり、学生と教員との懇談会の時期を検討してほしいとの要望があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 時期的には期末試験期間の終わりではなくて、空きコマで早めの時期がよいという意見があったので、今後、開催時期の設定する際の参考としたい。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構教育基盤センター	ベストティーチャー賞選考のための公開模擬授業	H27. 6. 9	146名	各部局から推薦された最優秀賞候補者6名による公開模擬授業を実施
	大学教育・学生支援機構教育基盤センター	教養教育ベストティーチャーによる公開授業	H27.10. 1～ H27.10.29	0名 (学生5名)	昨年に引き続き、教養教育ベストティーチャー優秀賞受賞者2名の授業を公開
	大学教育・学生支援機構教育基盤センター	英語教育FD	H27. 9.30	9名	アンケート結果を通して今後の英語教育方法の改善について確認
	大学教育・学生支援機構教育基盤センター	第7回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」	H27.12. 7	35名	他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認
	大学教育・学生支援機構教育基盤センター	英語教育FD	H28. 3.24	15名	英語の多読及び全学統一 TOEIC 試験の結果を検証・報告し、意見交換
教育学部 教育学研究科	教育学部	特設の授業公開(前期)	H27. 6.16	1名	授業公開の実施
			H27. 7. 7	1名	授業公開の実施
	教育学部	特設の授業公開(後期)	H27.11.26	1名	授業公開の実施
			H27.12. 21	2名	授業参観、授業公開及び授業研究会の実施
	教育学部	ベストティーチャー賞受賞者による授業公開	H27.11.10	1名	授業公開の実施
			H27.12.21	2名	授業参観、授業公開の実施
教員養成FDセンター	新任教員研修会	H27. 4.13	14名	教育学部の新任教員に対し、本学部の特色、附属学校園の役割、教員養成のしくみ、FDセンターの目指すものについて講話を実施。附属学校園の公開研究会と教育実習について説明。	

	教員養成 FD センター	第 1 回教育サロ ン	H27. 7.14	10 名	学部新任教員を囲み、附 属小学校の公開研究会 に参加して感じたことを 意見交換した。附属小学 校教員による「附属小学 校における授業の実際 と授業研究の概要」の発 表を行い、それについて 教員間で討議した。
	教員養成 FD センター	第2回教育サロ ン	H27.12.18	12 名	教育実習の授業参観を 通じて感じたことを教員 間で意見交換した。附属 小学校教員による「附属 小学校における教育実 習の概要と課題」の発表 を行い、それについて教 員間で討議した。
	教育学部	教育学部 FD 講 演会	H27.11. 8	50 名	インクルーシブ教育シス テムの構築に向けた特 別支援教育の推進 ～学校教育における合 理的配慮について～
	教育学部	教育学部 FD 講 演会	H28. 2.17	76 名	「障害者差別解消法」の 施行において教育学部 教職員に求められること
社会情報学部 社会情報学研究科	FD 専門委員会	社会情報学部新 カリキュラムに 係る FD	H27.10.21	24 名	新カリキュラムに係る 説明会
	FD 専門委員会	FD 講演会	H27.11.25	23 名	PBL 講演会
	FD 専門委員会	公開授業	H27.11.30	3 名	経済学 I
	FD 専門委員会	公開授業	H28. 1.21	6 名	情報文化論 A
	FD 専門委員会	公開授業	H28. 1.28	10 名	情報文化論 B
医学部(医学科)	医学教育センター	医学教育教授法 ワークショップ	H26.12. 6	123 名	模擬授業 新実習説明会、特別講演
	医学科教務部会	医学教育教授法 ワークショップ	H27.12.19	121 名	模擬授業、医学教育分野 別認証評価受審説明、診 療参加型臨床実習説明、 特別講演

	医学教育センター	新カリキュラムによる臨床実習について	H27. 6 ～H27.10	176 名 ※1	新カリキュラムによる臨床実習についての説明
医学部(保健学科)	教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H27. 9.15	73 名	ベストティーチャー賞受賞者による講演
	教育課程専門委員会	保健学教育ワークショップ	H28. 2.29	69 名	学部教育における臨地実習のあり方と質の担保について
医学系研究科	医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院医学系研究科FD	H27.11. 8	47 名	医科学英語論文作成講座等
	医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻・生命医科学専攻 FD	H28. 2.10	76 名	医学系オンライン・セミナー・データベースについて
理工学部 理工学府	理工学部	英語教育 FD	H27.12. 1	37 名	教養英語の成績等について
	理工学部	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業	H27.12.16	93 名	ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業
	理工学部	JABEE に係る教養教育担当教員との懇談会	H27. 7.30	10 名	改組後、新生の様子、変化などについて
	理工学部	英語「多読」講演会 & ワークショップ	H28. 3. 7	37 名	英語読書の「多読」を紹介し、多読の学習法とその効果をより広く知ってもらうことを目的とする。
	群馬大学	博士キャリアパス開発シンポジウム 2015	H27.12.10	95 名	基調講演、インターンシップ体験発表他

※1:臨床実習については、各診療科のカンファレンスにおいて実施しており、参加人数を把握していないため、臨床系教員数とした。

(2) FD活動に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
-----	------------------

<p>大学教育・学生支援 機構</p>	<p>【結果概要】 学びのリテラシーFDでは、各学部の取り組み状況を検証し、全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」では、他大学の事例発表を通して今後の大学教育の取り組みについて確認した。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>教育学部 教育学研究科</p>	<p>【結果概要】 見学者・授業者が相互に授業改善に資することを目的に、授業評価で高評価を得ている授業について、広く見学者を募って授業公開を行った。また、FD講演会を実施した。</p> <p>【課題】 授業公開については、教員の参加数が少ないことが課題である。また、FD講演会については、長時間の開催では参加者が集まりにくい。</p> <p>【具体的な改善事例】 授業公開の日時・内容等について掲示するだけでなく、全教員宛にメールで通知した。FD講演会では教授会の修了後講演会を開催した。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】 平成 28 年度からはじまる新しい教育プログラムに対する共通理解を深めるべく、加えて新たに正式科目とした問題解決型学習(PBL:アクティブラーニングの一種)についての理論と方法・実践を学ぶべく、FD を実施した。ほぼ全員の教員が参加した。</p> <p>【課題】 学部評価アンケートの結果から明らかになったように、「アクティブラーニング等で学生の主体的な参加を促す」授業は 65.0%と改善の余地がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 アクティブラーニング等の FD を重ねて開催したり、アクティブラーニング等の授業を公開授業として、教員が学習できる機会をより多く設ける。</p>
<p>医学部(医学科)</p>	<p>【結果概要】 より多くの教員にFD参加の機会を提供するため、専門医共通講習との連携を図るとともに、実施方式を変更した。(土曜半日) 医学教育センター教員による、各診療科、実習協力病院への出張FDを取り入れた。</p> <p>①学外実習病院と教育内容及び課題の共有を図るため、平成 27 年6月～10 月に学外実習病院を訪問した。</p> <p>②附属病院各診療科を訪問し、臨床実習に関する説明と質疑応答を実施した。</p>

	<p>【課題】 FDを実施する教員が限られている。より多くの教員がFDを実施するようになると良い。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際基準に対応した医学教育分野別認証評価受審に関する教員の意識が高まった。 ・臨床実習の教育内容や課題について学内外の実習担当者と意識の共有が図れた。
医学部(保健学科)	<p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施して、各教員の授業方法・質の向上に努めている。単なる模擬授業ではなく、授業実施に当たってはいかに学生に興味を持たせるか、いかに内容を理解させることができるかを念頭に、ポイントを押さえて説明するなど、受賞者が留意している点を重点に講義を行った。</p>
	<p>【課題】 特定の教員だけではなく、保健学科教員全体のボトムアップとなるような意識づけが必要と思われる。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
医学系研究科	<p>【結果概要】 11月8日に開催したFDでは、理科系英語に秀でた渋谷メアリー先生を招聘し、「初めての英語論文作成講座」と題し、医科学英語論文作成に係る指導方法を実践にご指導いただいた。また、卒前・卒後一貫 MD-PhD コース正規履修者による講演を行い、教職員の同事業に対する理解を深め、履修学生との交流・指導の機会を提供した。 2月10日に開催したFDでは、Henry Stewart Talks 社の医学系オンライン・セミナー・データベース:The Biomedical & Life Sciences Collection について、Eyal Kalie 博士にご講演いただき、同データベースを活用したより内容の濃いカリキュラム編成の実現等を検討した。</p>
	<p>【課題】 特になし</p>
	<p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
理工学部 理工学府	<p>【結果概要】 ベストティーチャー賞受賞者による模擬授業を実施して、知識の伝達ということだけでなく、工夫をしている点、例えばPPTの使い方や板書の仕方、話し方など、特に留意している点を踏まえて講義をしてもらい、学生に対する一方的な授業ではなく、教員の立場から教員に向けて、授業の進め方を解説してもらえるのでとても効果的であると好評であった。</p>
	<p>【課題】 出席者の確保、出欠確認の簡素化</p>

	<p>【具体的な改善事例】 ベストティーチャーの模擬授業を教員会議の中で実施するなど、教員が多数出席する行事に合わせて開催し、出席者を増やした。</p>
--	--

4. 学生等への意見調査 (在学生、卒業(修了)生、就職先及び保護者など)

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
教育学部 教育学研究科	教育に関する 現況調査アンケート	H28.1. 26 ～ H28.2.19	学部3年生 152件 学部4年生 159件 大学院生 71件	教員養成課程に関する教育の現況を明らかにするもの。
社会情報学部 社会情報学研究科	新入生との懇談会	H27. 4. 7	学生 106名 保護者 30名	新入生と教員とで懇談 学部長と新入生の保護者とで懇談
	後援会総会	H27. 6.27	保護者 46名	後援会総会の中で、保護者と懇談
	学部卒業時アンケート	H28. 1.30	学生 113名	卒業論文発表会終了時に、学部生としての活動を総括するアンケートを実施
	研究科修了時アンケート	H28. 1.30	学生 11名	修士論文発表会終了時に、院生としての活動を総括するアンケートを実施
理工学部 理工学府	群馬大学の大学教育に関するアンケート	H28. 2～ H28. 3	H23年からH26年に卒業した卒業生 1972人	群馬大学理工学部・理工学府の卒業生(修了生)を対象としたアンケート。 教育改善に役立てることを目的としている。

(2) 意見調査に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
教育学部 教育学研究科	<p>【結果概要】 平成27年度末に実施した学部生(3年、4年、大学院)を対象としたアンケート調査の結果をまとめて報告書を作成した。前年度と同様な調査期間を設けて実施した結果、ほぼ同様な回答件数であった。教育学部の総合評価において、肯定的な評価をした者の割合が前年度に続き 90%以上であった。また、教育学部の取組においては、「教育実習の充実」において肯定的な評価をした者の割合が 90%以上であった。</p>

	<p>【課題】 前年度とほぼ同数の回答件数であったが、在籍件数が前年度に比べて 27 名増加しており、前年度比-5.7%であった。施設・設備において、駐車場の管理に関する要望が比較的多く見受けられた。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 アンケートに可能な限り協力してもらえよう学生への周知・依頼の徹底を行う。回収率の公表などより具体的な対策を実施したい。駐車場ルールについて学生への周知を徹底するとともに、学生委員会と学部生で組織する学生委員とで駐車場ルールの違反者に対する取り締まりを引き続き行う。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【結果概要】 保護者との懇談では、キャリア教育と就活支援についての質問や要望が多く出た。 学部卒業時アンケートにおける「群馬大学社会情報学部でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対する回答は、「とても充実」「充実」を合わせて 95.4%であった。また、研究科修了時アンケートにおける「群馬大学大学院社会情報学研究科でのあなたの学生生活は、充実していましたか」との質問に対する回答は、「とても充実」「充実」を合わせて 100%であった。</p>
	<p>【課題】 学部が独自に実施しているキャリア教育をより充実させる必要がある。 学部独自のキャリア支援とキャリアサポート室のキャリア支援を連携協調させる必要がある。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 学部独自に実施しているキャリア教育である連携授業を充実させる。 現在、荒牧地区での企業説明会はバラバラな日時で開催されている。2～3日にまとめて「企業合同説明会」を計画するようキャリアサポート室へ要望する(複数の企業からの要望を踏まえた対応)。</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【結果概要】 この調査は、群馬大学の卒業生(修了生)を対象としたアンケートで、群馬大学の教育改善に役立てることを目的としている。 H23 年から H26 年に卒業した卒業生 1972 人に郵送依頼し、webでの回答方式。157 人が回答。</p>
	<p>【課題】 回答が少ない。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 回答率が上がるように、実施時期、体制を今後検討していく。</p>

5. その他 特記事項

学科等	特記事項
教育学部 教育学研究科	今年度実施した授業評価アンケートを教務委員会において検討し、より回収率が伸びるよう周知・依頼を徹底する。
社会情報学部 社会情報学研究科	特になし
医学部(医学科)	特になし
医学系研究科	本研究科ではとくに学生との懇談会・意見調査などを行っていないが、上記 FD や「大学院生によるワークショップ」の後に、学生と教員、外部評価者、招待講演者などとの意見交換会を開催しており、その機会を利用して学生からの意見を聴取し、それを教育方法改善に役立てるよう努めている。
医学部(保健学科)	特になし
保健学研究科	特になし
理工学部 理工学府	特になし

6. 根拠資料

学部等	根拠資料
大学教育・学生支援機構	資料 1. 平成 27 年度前期授業評価集計表(学びのリテラシー) 資料 2. 平成 27 年度後期授業評価集計表(学びのリテラシー) 資料 3. 平成 27 年度教養教育アンケート集計表 資料 4. 学生と学長との懇談会要旨 資料 5. 群馬大学ベストティーチャー最優秀賞候補者による公開模擬授業等の開催について 資料 6. 平成 26 年度教養教育ベストティーチャー による公開授業開催について 資料 7. 第7回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」の開催について 資料 8. FD セミナーの案内 資料 9. FD SEMINAR ANNOUNCEMENT
教育学部 教育学研究科	1. 授業評価集計結果 2. 授業評価アンケートWEB画面 3. 授業改善報告書様式 4. 平成 27 年度教育学部長と学生との懇談会要項事項一覧 5. 平成 27 年度修士課程院生アンケート(学生と教員との懇談会)回答 6. 特設の授業公開概要 7. 平成 27 年度 授業公開科目一覧 8. 教育に関する現況調査アンケート在學生(3 年生)調査結果報告書 9. 教育に関する現況調査アンケート在學生(4 年生)調査結果報告書 10. 教育に関する現況調査アンケート大学院生調査結果報告書
社会情報学部 社会情報学研究科	・後援会総会次第 ・授業評価アンケート、集計結果 ・学部長との懇談会実施要項、研究科長との懇談会案内、懇談会記録 ・ガイダンス一覧 ・学部卒業時アンケート、集計結果 ・研究科修了時アンケート、集計結果
医学部(医学科)	1. H27 FD次第 2. 平成 27 年度医学科学友会前期懇談会 3. 平成 27 年度後期教職員と学友会による懇談会(最終版)
医学部(保健学科)	1. FD 関係 2. 授業評価アンケート関係
医学系研究科	・医科学専攻在學生アンケート集計結果
保健学研究科	H27 保健学研究科授業評価アンケート用紙

<p>理工学部 理工学府</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業改善のためのアンケート用紙 2. 授業改善のためのアンケート結果票 3. 公開授業に関するアンケート 4. 学生との懇談会 5. 英語教育FD 6. ベストティーチャー賞優秀賞受賞者による模擬授業 7. JABEEに係る教養教育担当教員との懇談会 8. 英語「多読」講演会&ワークショップ 9. 博士キャリアパスシンポジウム 2015 10. 群馬大学の大学教育に関するアンケート集計結果報
----------------------	---

学生と学長との懇談会要旨

日 時 平成27年7月14日（火）16:00～17:00

場 所 大学会館2階（ミューズホール）

出席教職員 平塚学長、窪田理事、後藤理事、高橋教養教育部会長、小林教養教育部会副会長、久米原総合情報メディアセンター教授、道見学務部長、松村研究推進部長、藤村施設運営部長、八木教務課長、青木学生支援課長、中田国際交流課長、矢島総合情報メディアセンター課長、湯澤施設企画課副課長

オブザーバー 海野群馬大学生生活協同組合専務理事

出席学生数 46名

概要 出席教職員の紹介があった後、下記のとおり、学長挨拶及び学生との懇談が行われた。

記

○学長挨拶及びコメント

本日お集まりのみなさんは1年生ということですが、3ヶ月たち大学にも慣れたと思います。今日は所属している各学部・各学科の先生から群馬大学はどんな大学かすでお聞きになっていると思いますが、それを基に懇談会で私達と意見交換を行い、群馬大学を少しでも良い大学にして行くことの話合いが出来ればありがたいと思っています。

まず、最初に事前にお聞きした学長から直接聞いてみたい事柄について、その代表的なものについてお答えいたします。私の学生の時と環境が全然違うので参考になるか分かりませんがご質問にお答えします。

私は本学の理工学部の前身の工学部出身です。入学した当時は教育学部の前身の学芸学部、医学部、工学部の3つの学部があり学生数は今の半分くらいでした。

社会情報学部は平成5年に設置された新しい学部になります。

私のサークル活動は卓球部で4年間行いました。同期の方は学芸学部3人、医学部3人、工学部9人でした。この仲間とは今でも損得抜きで付き合い、久しぶりに会ってもすぐに学生時代に戻った話ができる。卒業研究の時に研究室にいた仲間が11人いますがその人達とも同じように今でも仲良くやっています。今私は学長をしていますが学生時代に大学で教員になろうとか、まして教授になろうとか考えたことはありませんでした。当時の教授は雲の上の人で、私達から見たら話しにくい人でした。最近の教授はみなさんと親しく話すのではないかと思います。当時は厳しそうな感じの人が多かった。学生時代の私はすごく平凡な学生でした。一人で下宿生活をしてい

ました。当時の教養部はベイシア文化ホール(群馬県民会館)があるところがキャンパスでした。大体の学生はテレビを持っておらずラジオだけでした。お風呂も近くの銭湯に通っており、みなさんの生活とだいぶ違うと思います。遊びですが学生の遊びはマーじゃんとパチンコでした。4人集まればすぐに麻雀でした。その時代麻雀は会社に入ったら絶対必要なスキルということでみなさん一生懸命やっていました。私も同じで2年生が終わるくらいまで麻雀をやっていました。

テレビもなく遊びもない余分な刺激がないので勉強するには良い環境で3年の半ばで麻雀にはあきて勉強する気になりました。私が勉強する気になった理由は3年生の時に学園祭で、後に工学部長になった松井先生の指導を受けて合成と染色というテーマで参加しました。その時に色と分子と光の説明が必要になり勉強を始めました。当時量子化学は日本では盛んではなくアメリカで急速に発展していた状態でアメリカから帰ってきた先生から、アメリカの大学は量子化学について研究しており、量子化学を勉強しなければわからないと教えられ勉強いたしました。勉強しようと専門書を読んだが歯がたちませんでした。それで結局、数学や物理を最初からやり始めました。その勉強で1年以上かかりました。この時初めて1年生から勉強しておけば良かったと実感しました。麻雀も良かったですが勉強が大事でした。4年生の10月過ぎには勉強が実って量子化学の専門書を読むことができました。その後は勉強を続けたくて大学院に進学いたしました。楽しく勉強や研究を続けていたら博士の称号をいただくことができました。最終的に大学の教員になることができました。今思うと学生の時にいきなり大学の教員になることを考えていたらどうなっていたか2つの人生は生きられませんのでわかりませんが、私は一步一步勉強してきたのが良かったと思っています。その後群馬大学で准教授、教授となりその途中いろんなことがありました。学園紛争があり先生方をキャンパスに入れないうロックアウトのようなこともありなかなか厳しい時代でした。私が助手の時に研究室の先生が田舎に帰るからといって他の大学に移って大変なピンチでしたが、人生としては良い勉強したかなと思っています。

学生時代を振り返ると学生時代は体力を鍛えるのは良い時で体力を鍛える、一生付き合える友人を作る、教養から専門を勉強できる。人生で一番良い時期かなと思います。時間があるので気持ちさえあればなんでもでき、是非良い先生とめぐりあって、失敗を恐れずに挑戦してみてください。そうすると未来が開かれると思います。

群馬大学について

群馬大学について簡単に説明したいと思います。国立大学は86校あり群馬大学は4つの学部と附置研究所で小さな大学です。ただし大学の研究力のバロメーターの科学研究費の獲得の件数が上位30位以内に入っており、研究レベルとしては非常に高い大学だと我々は自負しております。群馬大学としては地域に根ざして知の創造を通じて世界の最先端へと挑戦し、21世紀を切り開く、そういう大学になろうと活

動をしています。群馬大学には小さいながらキラリと光る特色あるいろいろな研究が行われている。みなさんご存知でしょうが重粒子線学、内分泌代謝学、教職大学院、アナログなどそういった貴重な多彩の研究が行われています。それから群馬大学は運営費交付金を文部科学省よりいただいており、国民の貴重な税金で毎年120億の大変な額をいただいており、したがって国民の期待も多く社会で活躍する優れた人材を養成することが我々に期待されています。私達もそれを意識して教育や研究を行っています。したがってみなさんの夢を実現することが結果的に社会の貢献につながっていると思いますので、是非我々とがんばっていただきたいと思っております。

最後に学長がこれと言っていないだろうと思われることを2点お話しします。

一つ目は医学部附属病院の医療事故のことで、旧第2外科の医療事故のことで、みなさんには大変ご心配をおかけしております。現在その原因の究明と再発防止について事故調査委員会あるいは病院の改革委員会をつくりまして、そこで審議をしております。改革委員会については夏の終わり頃には結果を出す予定で、さらに現在進めている医療安全整備を進めていきたいと思っております。

二つ目は、国立大学人文系の再編について文部科学省が最近示したものです。国立大学の教育学部や人文系の学部の組織を検討しなさいという要求がきました。教育系学部、人文系学部に社会的要請によって他の学部に転換や廃止を含めてそういう厳しい要求がきています。

教育学部はゼロ免課程をもっていないので直接的には関係ない、ただ将来的には少子化が進んで教員需要が少なくなったら改革を求められるのではないかと。

社会情報学部については来年4月には2学科を1学科に再編することを文部科学省に認められましたのですぐには、その対象にはならないということになりましたが、いずれ学部の将来について検討していくことが必要になると思っております。

今日は、各部署の責任者が来ておりますので、大学の運営に関して私達の目の届かないところを指摘していただき、ご提案をいただいて出来ることと、出来ないこともあります。出来るところは改善していこうと思っておりますのでいろいろな意見を出していただければと思っております。今日はよろしく願いいたします。

○学生との懇談

高橋教養教育部会長

事前アンケートに対し回答がお手元にあると思いますが、それを含めて意見をお願いいたします。学長にさらにお話しを聞きたいことでも構いません、意見がある方は挙手をお願いいたします。

学生:ホームページ上のことですが大学ホームページとメディアセンターの相互リンクがないことが不便に感じる、相互リンクはあるのでしょうか。

久米原総合情報メディアセンター教授:ポータルから直接相互リンクはありません。検討したいと思います。

学生:体育館のシャワー室の利用時間1時間長くしていただきたい。

青木学生支援課長:検討したいと思います。

学生:メディアセンターのラーニングスペースアゴラのインターネット環境の通じが悪いと感じましたので、調査をしていただきたい。

久米原総合情報メディアセンター教授:アクセス数が多いとそういう状態になると思いますので検討したいと思います。

学生:医学部の学生で運動部に所属しているものは東医体の試合日と教養教育の試験日が重なり単位が取れない学生がいるので、4月など早い時期に試験日を知らせていただきたい。また、東医体に出場する学生に対してレポートの提出で単位認定を教養教育で許可していただけますか。

高橋教養教育部会長:試験期間は4月には発表されています。しかし、各担当教員の都合により試験期間を早める場合の可能性があります、基本的に15回の授業と試験で休みになる可能性はないと考えてください。成績に関しては各教員に任されているので教員がレポートを認めればそれは良いが、教養教育からは東医体に出場する学生に配慮するよう各教員に働きかけは行いません。

学生:メディアセンターの書架が日本十進分類法(NDC)で並んでいるということですが、一部そのように並んでいないところがあり、同じ作者で探そうとした時に時間がかかってしまうので規則性に沿って並べていただきたいです。

久米原総合情報メディアセンター教授:日本十進分類法(NDC)に並んでいないところあるようでしたら、そのように改善いたします。

学生:シーズンスポーツを履修する予定だったが、教育実習と重なってしまったので履修することができなかった。シーズンスポーツの時期について教育実習を考えずに定めたのですか。

高橋教養教育部会長:シーズンスポーツは外部の先生が担当することが多いです。講師の日程を考慮し日程を定めている。たしかに、教育実習のプログラムを強く認識して定めていなかったです。教育実習の日は確実にこの日と定めてあるのでしょうか。

小林教養教育部会副部長:教育実習というのは不適切な言い方で1年生ですので現場体験学習だと思いますが3人から4人ぐらいのグループになって小中学校に訪問します。グループで学校に訪問日を伺い学校と交渉して行きますので時期は学校によってバラバラですので、シーズンスポーツと現場体験学習を調整することは不可能ですので、学校と交渉する際にシーズンスポーツの時期を配慮して調整していただきたい。

学生:シーズンスポーツを9月からはずしていただきたい。

高橋教養教育部会長:その時期にしかできないものも行っていると思うので、確実にできるかどうかわかりませんが検討してみます。

学生:メディアセンターで古典小説を増やす計画はありますか。

久米原総合情報メディアセンター教授:古典を増やす計画はありません。現在図書館では各学部から依頼された図書や学術研究といった点で本を購入しています。学生から要求をしていただければ購入いたしますが全集として全部揃えるのは難しい。

矢島メディアセンター課長:購入希望があれば窓口やWebのMyLibraryで購入要望ができますので利用ください。

久米原総合情報メディアセンター教授:古典ですと著作権が切れていてインターネット上でも見られますのでそういうものもご利用ください。

学生:生協の閉める時間を18時30分頃までにして欲しい。

海野群馬大学生生活協同組合専務理事:現在17時40分から18時くらいで閉めている。桐生キャンパスに行くと18時までやっていますが、いろいろなデータを見ますと利用者も減って効率性の面から見てもすぐには難しいと思っています。

学生:養心寮ですが、桐生の寮の改修があり難しいとは思いますが、設備が古く、ドアのノブの鍵が壊れて中から開かなくなることがよくあるので、せめてドアノブの点検だけでもしていただきたいです。

青木学生支援課長:養心寮は、新しくしたいが予算のこともありすぐには改修ができません。

学生:現在グローバル大学というものがありますが、群馬大学は入っていませんでしたが群馬大学のグローバル化というものはどのように考えているか教えて欲しい。

平塚学長:グローバル大学は申請しましたが通りませんでした。条件がたくさんあり留学生数とかありました。採択された大学は留学生数など高い目標値を提示したことも聞いております。ただ本学も留学生数を増やしたり外国人教員を増やしたりなど国際化に力を入れていきたい。

窪田理事:グローバル化はということなのかは、外国の方が近くにいる日本語だけでなく外国語でも頻繁に会話があり意識として世界に我々が繋がっているという気持ちを学生に持っていただきたい。文部科学省への申請では卒業まですべての科目を英語で授業をするコースなどでハードルが高いものでした。外国人留学生の受入や日本人学生の留学のサポートも計画があります。ちょっとでも海外に出れば考えや、見方、感覚が変わりますのでそういう経験をしていただきたい。

学生:グローバル化で学生に求められる事は何ですか。

窪田理事:外国語の能力を高めることや、いろんなところから外国の情報を得ることなどです。

学生:要望でも希望でもありませんが、よろしければ学長先生達の座右の銘を教えてください。

平塚学長:私は特にないです。禅とか一言的なことが好きです。

後藤理事:明治大学のラグビー部の以前監督で北島先生が言っていた「前へ」という言葉でこの精神はいろいろな意味で人生に通じることがあります。禅宗のお寺に行くと手洗い鉢というのがあり「吾唯足知」と書いてあり与えられた自分の境遇や環境を糧にして前に進んで精進しなさいという教えですが非常に良い教えだと思っています。

窪田理事:座右の銘は特に持っていませんが、以前理工学で研究室の学生に「3日3月3年」という言葉で、会社で3日くらいで嫌になってそれを乗り越えると3ヶ月くらいたつと転職したくなり、それをがんばって3年くらいたつとその仕事が出来ると学生に話していました。

学生:私は硬式野球部ですが野球グラウンド内外やグラウンド以外の除草も気になるのでお願いします。

学務部長:検討したいと思います。

窪田理事:野球部でやってはどうですか、私が学生の頃はやっていました。

学生:検討して見ます。

学生:今後群馬県が良い発展をしていくには良い意見はありますか。

平塚学長:ひとは群馬県はかかあ天下と言われていますが男女共同参画をやってみますと女性に管理職になって欲しいという中々承諾されないで、それを突破して女性に活躍していただきたい。また、群馬大学の特色を生かすべきだと思います。医学部は非常に強力で医理工連携がポイントになりそれをテコにして産業を作っていければと思っています。

学生:医学部と理工学は距離がありますが連携がとれているのですか。

平塚学長:最近はとれるようになって文部科学省のプロジェクトの医理工連携プロジェクトが採択されています。

高橋教養教育部会長

時間になりましたので、終了いたします。

以上